



# Tokyo Sports & Orthopaedic Clinic



## チーム医療で繋げる、治療結果。

### 肩肘疾患について

多くの肩肘疾患を診てきましたが、ほとんどの症例が、構造的に破綻をしているのではなく、機能的に問題が生じることによるものです。機能的な問題の場合は、リハビリテーションによって保存的に機能障害を修正し、それでも症状が取り切れないものに対して、手術を行うようにしています。実際に選手の9割が、保存療法で良くなっています。

手術はそこまで必要ないことから、肩肘疾患を診始めた当初より、リハビリテーションを専門とする理学療法士、セラピストとチームとして連携していかなければ、治療の結果は出せないと思ってやってきました。

### 大切なのは、結果出し率

特に選手であれば、手術によって構造的な問題を治したとしても、復帰後に結果を出せているのかというところが重要だと考えています。手術数ではなく、保存・手術・術後リハビリも含めて、どれだけ高いレベルで復帰させられているか。大切なのは、結果出し率だと思っています。この統計があるとすれば、世界を見ても圧倒的に一番の結果を出していると言えます。手術や学術的な実績もありますが、私たちの治療で求めているところは、結果出し率です。これからも多くの結果を出していき、もっと世界に広めていきたいと思っています。

### 理学療法士との連携が 良い治療に繋がる

当然ですが、保存療法で結果を出すには、理学療法士のレベルが重要です。リハビリの技術が足りなければ、手術を適用する確率は高くなります。技術以外にも、医師と理学療法士で、常にコミュニケーションをとることが大切だと考えています。医師の信頼と理解がある状態でリハビリ治療に臨まなければ、理学療法士もなかなか結果は出せないのではないかと思います。

私たちは一人の患者さんに対しての見解をすり合わせることで、お互いの刺激にもなり、自身のレベルアップにも繋がっています。理学療法士はセラピストとしてのレベルを上げ、私たち医師は手術の技術や学術的なものを突き詰めていく。お互いの知識や技術を共有しながら治療に臨んでいくことが、患者さんのためになると考えています。

私には20年以上一緒にやってきた理学療法士がいますが、彼らがいないとTSOCも始まりません。ホグレルも、彼らの治療メソッドの一環として必要なため、導入しました。彼らを中心に、施設全体のリハビリテーションのレベルを上げていき、最強のPT集団を作ることで、TSOCを世界一の施設にしたいと思っています。



すがや ひろゆき  
菅谷 啓之 先生 プロフィール

- 1987年3月 千葉大学医学部卒業。千葉大学整形外科入局。
- 1993年4月 千葉大学整形外科医員
- 1996年3月 米国留学 (Research Fellow, Orthopaedic Research Lab, West Palm Beach, FL)
- 1997年4月 川崎製鉄健康保険組合千葉病院 (現医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター) 整形外科部長
- 2002年4月 船橋整形外科病院 スポーツ医学センター 肩関節肘関節外科部長
- 2011年12月 米国ハワイ大学医学部客員教授 (現職)
- 2013年4月 PMDA (独立行政法人医薬品医療機器総合機構) 専門委員 (現職)
- 2013年4月 船橋整形外科病院 肩関節肘関節センター長
- 2015年4月 東京女子医科大学整形外科客員教授 (現職)
- 2016年4月 船橋整形外科病院 スポーツ医学・関節センター長
- 2018年4月 千葉大学整形外科臨床教授 (現職)
- 2020年9月 東京スポーツ&整形外科クリニック (TSOC) 開設

肩肘関節疾患の関節鏡視下手術を独学で習得。  
その治療法と技術を日本国内はじめ世界に広める。  
研究論文、執筆、講演など多数。  
その技術を学びに集まる研修生、見学なども多く受け入れている。